

平成 29 年 10 月 14 日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部
実践「ペルソナ」研究会

実践『ペルソナ』通信 (No.44)
「女子大学生のマイボトル」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「女子大学生のマイボトル」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は 85 サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学担当:竹内光悦」、「経営学担当:篠崎香織」、「マーケティング担当:斎藤明」の 3 つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

総括

女子大生はマイボトルを所持、利用しているのか、利用していない人はなぜ利用していないか、また、使用している人としていない人では飲み物にかかる金額がどうかなどを調査し、85 人から回答を得た。

その結果、マイボトルの所持率については 60%以上が所持しており、半数以上の女子大生が持っていることが分かった。しかし、毎日マイボトルを使用している学生は全体の約 25%と、マイボトルがあまり使用されていないことがわかった。使用されているマイボトルは、約 75%がステンレス製で、プラスチック製は約 25%と、ステンレス製が主流であった。持っていない、使っていない理由としては、「用意するのが面倒だから」「用意する時間がないから」「洗うのが面倒だから」「重いから」といった理由が多かった。

また、一週間で飲み物にかかる金額は、マイボトル利用者の 70%以上が 300 円以下だったのに対し、マイボトル非利用者は、80%以上が 300 円以上かけているとわかった。

以上の結果から、マイボトルを持っていない人や、持っているのに使用していない人に、購入してもらい、使ってもらうためには、軽くて洗いやすく、用意する手間が省けるマイボトルを提案することがポイントとなるだろう。

調査結果のポイント

(1)マイボトルを持っている人は 60%に対し、持っていない人は 40%

マイボトルを持っている人が 85 人中 51 人であり全体の 60%と半数を超えていて、マイボトル自体は持っている人の方が多いことが分かった。普段学内ではペットボトルを持っている人の方が多く見かけるため、予想を上回る結果となった。

(2)マイボトルを毎日使っている人は全体の約 25%

マイボトルを持っている人の中でも毎日使っている人が全体の 25%、マイボトルを持っている人というと 40%という結果になった。つまり、マイボトルを持っていても毎日使っている人は半数以下であり、マイボトルを持っているにも関わらず、使っていない人も多くいることが分かった。

(3)使用されているマイボトルはステンレス製が多いが、自分で購入しているのはプラスチック製が多い

毎日マイボトルを使っている人の中でステンレス製のボトルを使っている人は 76%、プラスチック製のボトルを使っている人は 24%となった。また、ステンレス製のボトルを使っている人のうち自分で選んで購入した人は 25%であるのに対して、プラスチック製のボトルを使っている人のうち自分で選んで購入した人は 100%であった。この結果から、家族が選んで購入してくる場合には高性能なステンレス製のものである場合が多く、自分で選んで購入する場合はプラスチック製のボトルを選ぶことが多いということが分かった。

(4)マイボトルを使っていないのは、用意が面倒・時間がない、洗うのが面倒、重いなどが主な理由。

マイボトルを持っていない、使っていない理由としては「用意するのが面倒だから」と答えた人が 25%、「用意する時間がない」が 22%、「洗うのが面倒だから」が 19%、「重いから」が 17%となっていた。朝、家を出るまで準備する段階において手間を感じる人が 47%と約半分を占めていることが分かった。また、「買おうと思えばどこでも買えるから」という項目が 11%と予想を上回る回答数であった。このことから、朝の準備に手間をかけたくないと思っていること、飲み物なら買ってしまった方が良いと考えていることが分かった。

(5)マイボトル利用者の一週間の飲み物購入代は 70%以上が 300 円以下だが、マイボトル非利用者の約 85%が 300 円以上

マイボトル利用者の 70%が 1 週間のうちで飲み物にけるお金が 300 円以下、19%が 301 円～600 円なのに対して、マイボトル非利用者は、0 円～300 円が 16%、301 円～600 円が 42%、601 円～900 円が 27%という結果になった。この結果から、マイボトル所有者は平均として約 330 円、マイボトル非所有者は約 540 円を 1 週間に飲み物に費やしていることになる。

調査結果について

調査概要

調査対象	女子大学生(本学学生と他大学生込み)
調査方法	Google フォームによるアンケート
調査期間	2017 年 8 月 3 日～2017 年 8 月 10 日
有効回答数	85 人

本調査担当チーム

実践「ベルソナ」研究会

3 年 佐藤花菜

3 年 塚原瞳

3 年 桃井真美子

3 年 小川清美

調査結果データ

(1) マイボトルをどのくらいの頻度で使っているかを尋ねたところ、そもそもマイボトルを持っていない人が 40%、毎日マイボトルを使っている人が 25%、週に 2、3 回使うという人が 35%であった。

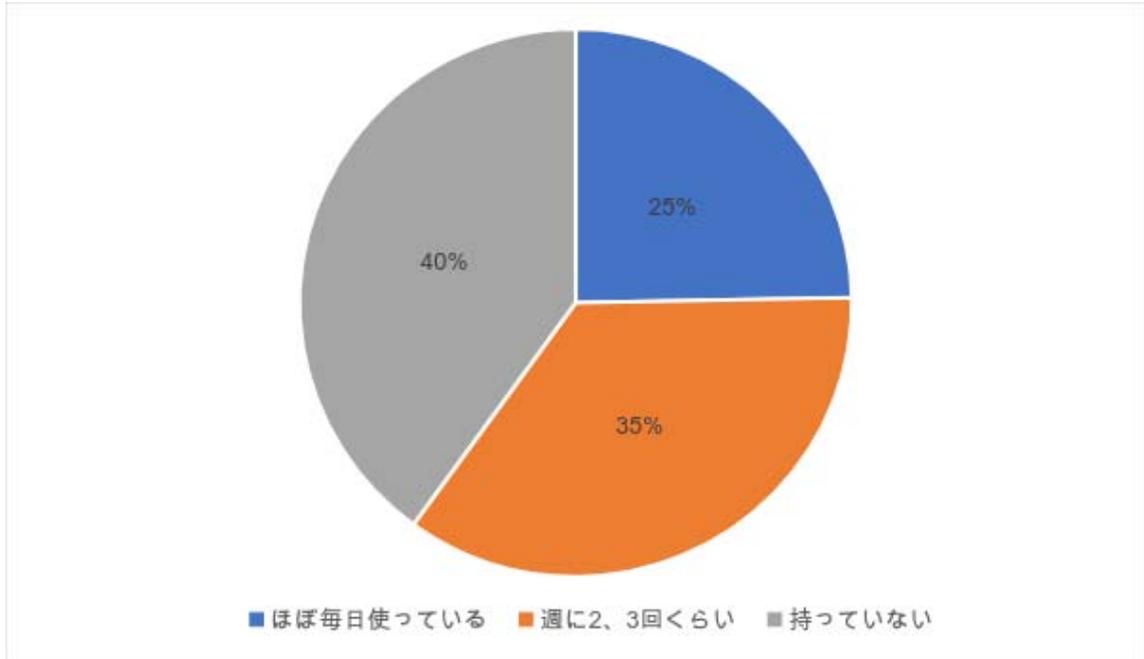


図1 マイボトルをどのくらいの頻度で使っているか(N=85)

(2) マイボトルを持っていない人に対してマイボトルを持っていない理由を項目を挙げて尋ねたところ、用意するのが面倒だから、用意する時間がない、洗うのが面倒だからという人が多かった。

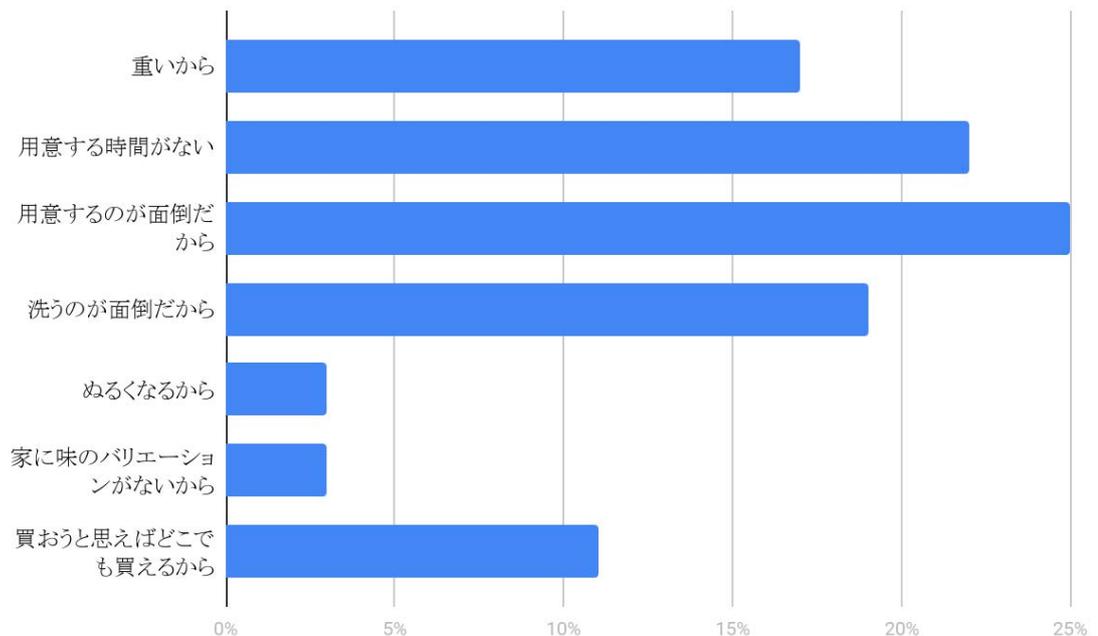


図2 持っていない、使っていない理由はなぜか(N=64)

- (3) どんな水筒ならほしいかを項目を挙げて 2 個まで回答可として尋ねたところ、携帯しやすい水筒は 36 件、容量が多い水筒は 6 件、保温や保冷の性能のある水筒は 27 件、デザインを重視した水筒は 26 件、洗しやすい水筒は 16 件であった。

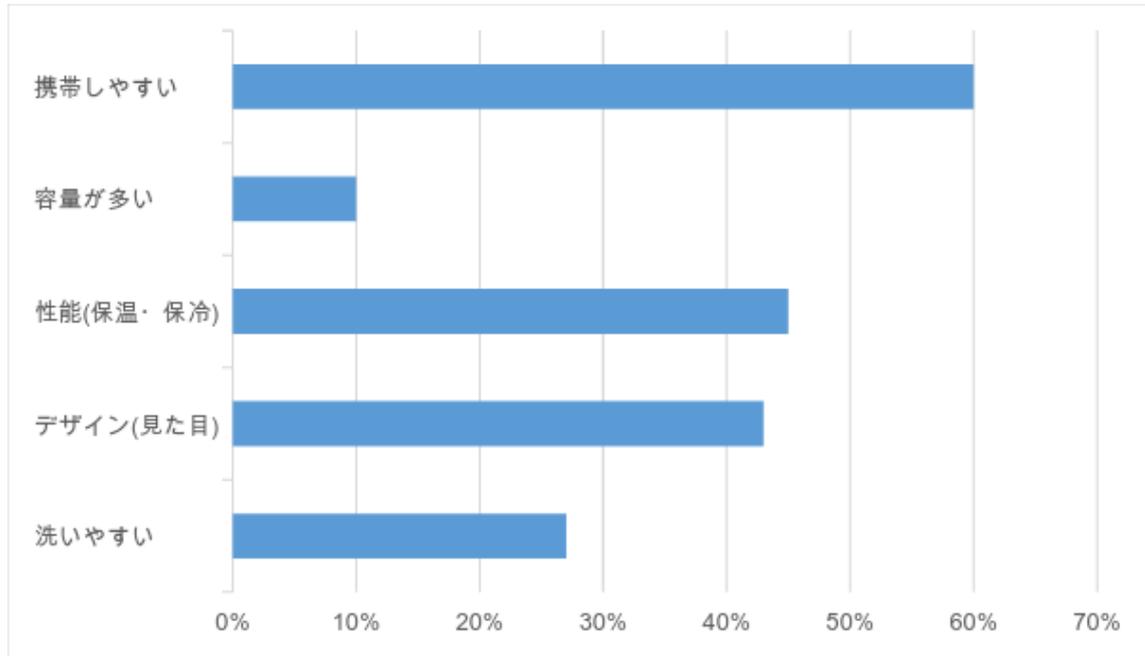


図3 どんな水筒がほしいか(2個まで回答可)(N=111)

- (4) 1 週間で飲み物にかける金額を尋ねたところ、マイボトルを持っている人は 0 円～300 円が 71%、301 円～600 円が 19%であるのに対して、マイボトルを持っていない人は 0 円～300 円が 16%、301 円～600 円が 42%、601 円～900 円が 27%という結果になった。

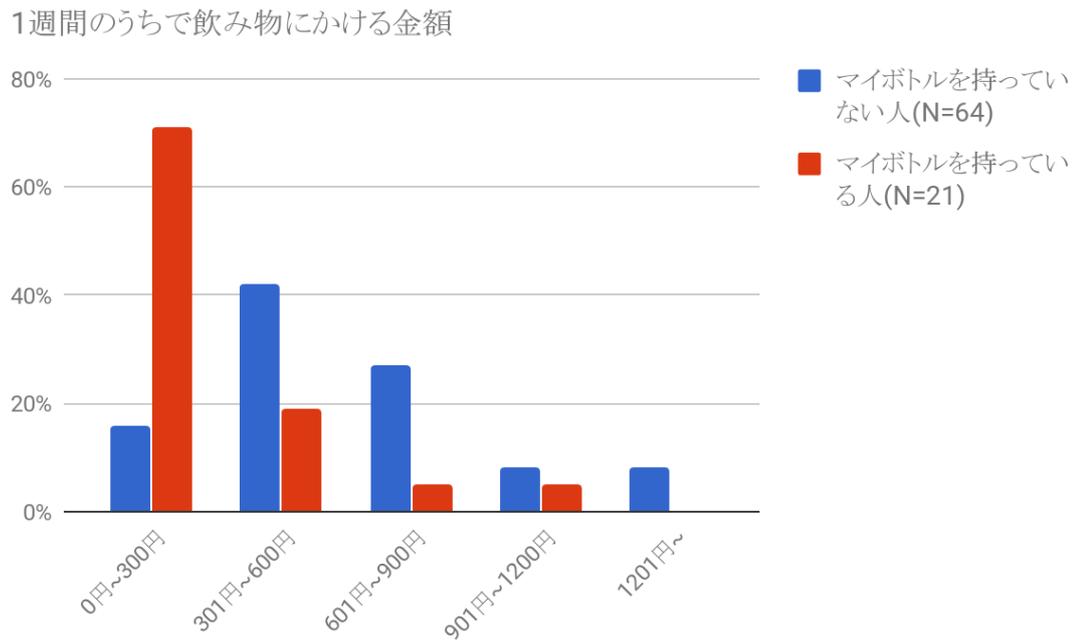


図4 1週間に飲み物にかかる金額(N=85)

(5) マイボトルを持っている人に対して持っているボトルはどのタイプか尋ねたところ、24%がプラスチック製で76%がステンレス製であった。

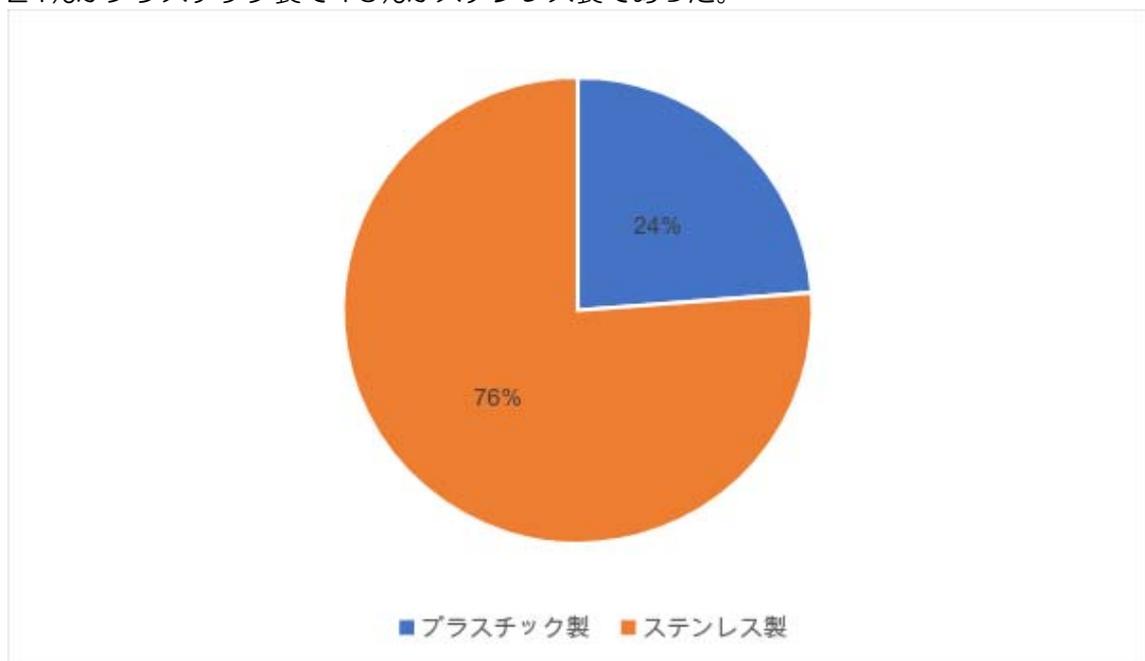


図5 持っているマイボトルの種類(N=21)

(6) プラスチック製のマイボトルを持っている人に購入者を尋ねたところ、全員が自分で選んで購入していた。

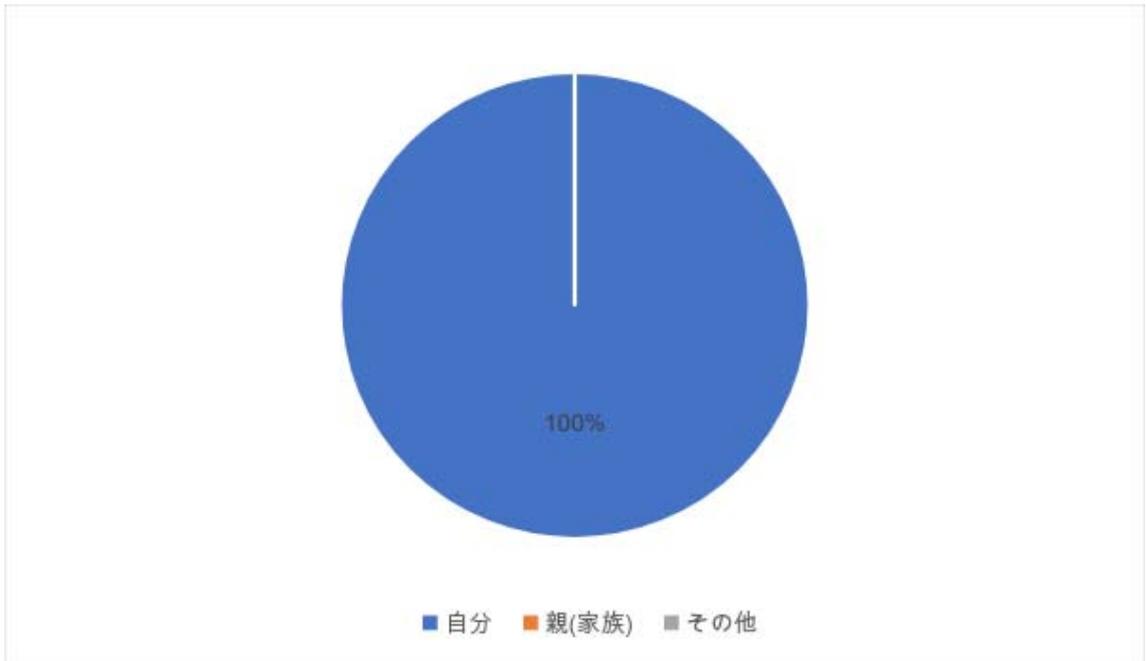


図6 プラスチック製マイボトルを購入したのは誰か(N=5)

(7) ステンレス製のマイボトルを持っている人に購入者を尋ねたところ、自分で選んで購入した人は25%、親や家族が選んで買って来たという人は75%であった。

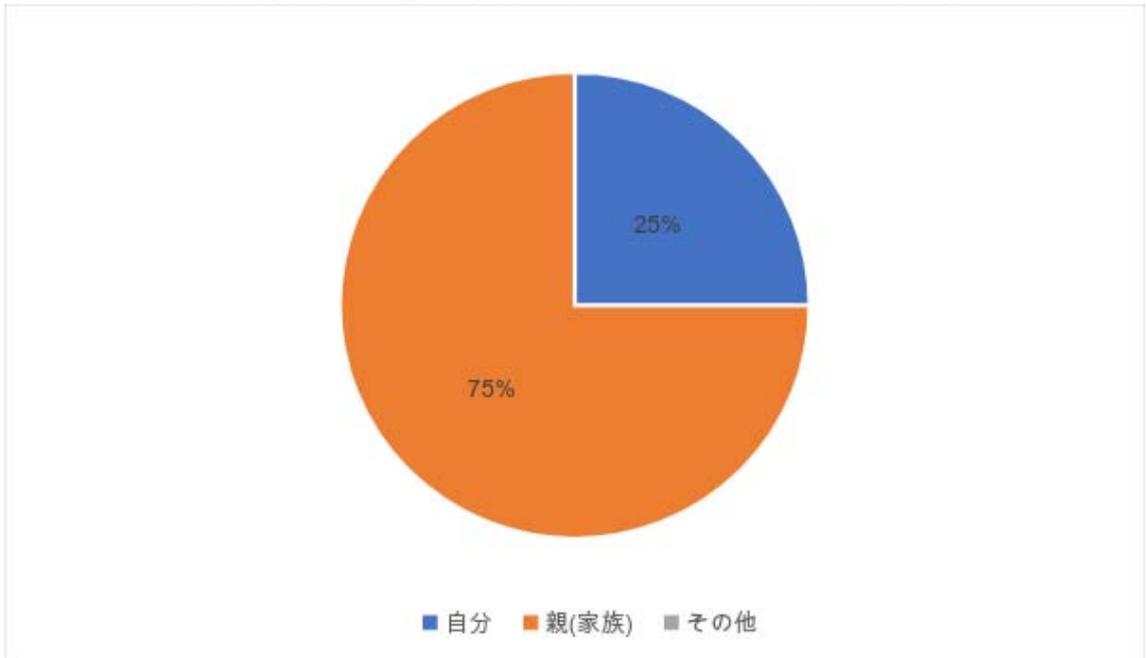


図7 ステンレス製マイボトルを購入したのは誰か(N=16)

【今後のマイボトルについて提案】

今回の調査から分析したことより、『学校でプラスチックボトルを販売し、専用自販機を設置すること』を提案する。

今回の分析でマイボトルを持ち歩かない人が多く、用意する手間や、洗う手間、重いという理由から持ち歩いていないことがわかった。学校に週 5 日通うと想定すると、一か月に学校に行く日は 20 日ある。マイボトルを持ちあるかない人が、飲み物を毎日買うと仮定して、アンケート結果から現状では月 2400 円程度かかっている。そこで、プラスチック製のボトルを 100 円で販売し、中身も専用自販機を設置して 50 円で販売することを提案する。

この提案では月 1000 円におさめられ、節約することができて、エコにもなる。プラスチックボトルはステンレスボトルと比べて軽く、部品も少ないため洗いやすく、洗う手間があまりかからない。また学校で中身を補充するため持ってくる時に重くなく、登校の際に準備をする必要もなくなる。荷物を軽減し、用意する手間が省け、洗いやすいので、ボトルを持ってきてもらえると考え。自販機の設定コストは会社によって異なるが、ティーサーバーのレンタルを行なっている会社によると、機械のレンタル代は月 10000 円、電気代は月 2000 円前後であることから、導入を見込める。

条件と具体的な方法は以下の通りである。

〈条件〉

1. ボトルはプラスチック製
2. 学内のコンビニで販売
3. 一杯 50 円、容量は 450ml
4. 販売する飲み物の種類は、緑茶、麦茶、ジャスミン茶など

〈購入方法〉

購入方法としては、まず（印刷ポイントの購入と同じ要領で）発券機で、ドリンク購入権を買う。販売単価は、1 か月の目安となる 20 日分で 1000 円とする。これを学生証に反映させ、かざすとドリンクを購入できる仕組みにする。

この学生証と連携してドリンクを購入するというシステムが現時点では実現可能なのか、という点を検証しきれなかったことが課題である。

以上が「女子大学生のマイボトル」調査チームの、調査結果と提案である。